



台北フィルハーモニー管弦楽団
Taipei Philharmonic Orchestra

指揮 林天吉
Paul Tien-Chi Lin

ヴァイオリン 森下幸路
Koji Morishita

2024
03/09
土曜日 14:00

祈り



Suntory Hall

指揮 林天吉
Paul Tien-Chi Lin


ヴァイオリン 森下幸路
Koji Morishita

2024
03/09
土曜日 14:00

祈り

 Suntory Hall

主辦

 財團法人台北市愛樂管弦樂團文化基金會
Taipei Philharmonic Orchestra Culture Foundation

 AMATI

指導

 國藝會
NCAF

感謝的話

「音樂可以改變世界。」這是我們信念。這場音樂會由台北市愛樂管弦樂團文化基金會主辦，AMATI協同主辦，後援會大力支持。張俊明董事及陳修雄先生慷慨解囊。特別要感謝吳東亮董事推薦台北愛樂管弦樂團進入 Suntory Hall，及台新國際商業銀行全力支持演出。

最後要感謝所有愛樂的長官、好朋友，我們共同使世界變得更加美好！

台北市愛樂管弦樂團文化基金會董事長

陳威中

感謝名單

公益財団法人日本台湾交流協会

福島県

台北駐日經濟文化代表処

台湾日本關係協会

台新國際商業銀行

全日本台湾連合会

日本中華連合總會

財團法人許遠東先生暨夫人紀念文教基金會

財團法人台北市愛樂管弦樂團文化基金會後援會

愛妮雅化妝品

宏美彩色印刷股份有限公司

陳修雄

張俊明

益瑪沉香周娛裁

演出者的話

台北愛樂管弦樂團成立39年。過去在指揮家亨利·梅哲的帶領之下，數次遠征包括波士頓交響音樂廳、甘迺迪中心、魯道夫音樂廳、聖彼得堡愛樂廳、維也納愛樂廳等頂級音樂殿堂，贏得一致的好評。今日於世界最佳音響美譽之東京三得利音樂廳演出，以「祈」作為標題，結合著台日一流音樂家的創作與演奏，為311日本地震的土地與人民祈福。曲目除了貝多芬經典的《命運交響曲》之外，更將台灣掌中戲與交響樂結合的《媽祖傳奇》，漂洋過海呈現於日本聽眾面前，林天吉指揮台北愛樂管弦樂團與大阪交響樂團首席森下幸路攜手，演出日本樂壇巨擘外山雄三先生的第二號小提琴協奏曲，見證台日友好的邦誼。感謝日台各界人士與企業的支持與參與，無情天災，雖然摧毀了家園，卻動搖不了堅強的意志，更隔斷不了人與人之間緊密的連結，願「祈」音樂會，撫慰所有傷痛的心靈，共同見證音樂改變世界的力量。

台北愛樂管弦樂團創辦人

賴文福

台北市愛樂管弦樂團文化基金會董事長

陳威中

台北愛樂管弦樂團團長

李羅權

出演者のメッセージ

台北フィルハーモニック管弦楽団は39年前に設立されました。過去には、指揮者ヘンリー・メイザーの指導のもと、ボストン交響楽団、ケネディセンター、ルドルフ音楽ホール、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー、ウィーン・フィルハーモニーなど、世界のトップクラスの音楽ホールでの遠征を数多く経験し、高い評価を受けてきました。今日は、世界有数の「美しい響き」を誇る東京・サントリーホールで、「祈り」と題した演奏会を行います。台湾と日本の一流の音楽家たちによる作曲と演奏が融合し、2011年の東日本大震災で被災した地域と人々に祈りを捧げます。プログラムには、ベートーヴェンの名曲「運命」交響曲に加え、台湾の伝統的な人形劇（掌中戲）と交響樂を融合させた「媽祖伝記」も含まれています。指揮者林天吉が台北フィルハーモニック管弦楽団を率い、大阪交響楽団首席ソロコンサートマスターである森下幸路と共演します。彼らは、日本の音楽界の巨匠、外山雄三の第二ヴァイオリン協奏曲を演奏し、台日の友好関係を讃えます。日本と台湾の人々や企業からの支援と参加に感謝します。自然災害は家々を破壊しましたが、強い意志と人々の絆を揺るがすことはできません。この「祈り」のコンサートが、すべての傷ついた心を慰め、音楽が世界を変える力を共に証言することを願っています。

台北愛樂管弦楽団創設者

賴文福

台北市愛樂管弦楽団文化財団理事長

陳威中

台北愛樂管弦楽団団長

李羅權

曲目

鍾耀光

《媽祖傳奇》(2023) 給掌中戲與管弦樂團

『媽祖伝奇』(2023)

協演：華洲園布袋戲團 共演者：華州園人形劇団

(台北愛樂管弦樂團委託創作，本作品由財團法人國家文化藝術基金會贊助)

(台北フィルハーモニー管弦樂團からの委託により創作)

外山雄三 (1931-2023)

《第二小提琴協奏曲》op. 60

ヴァイオリン協奏曲第2番作品60

小提琴獨奏：森下幸路 ヴァイオリニスト：森下幸路

第一樂章 節制的快板

第二樂章 詼諧風的急板

第三樂章 非常慢的緩板—很快的快板

中場休息

貝多芬 ベートーヴェン

c小調第五號交響曲 op.67 《命運》

交響曲第5番ハ短調 作品67 「運命」

第一樂章 燦爛的快板

第二樂章 稍活躍的行板

第三樂章 詼諧曲 快板

第四樂章 快板

Program

Yiu-Kwong Chung

“The Legend of MAZU” (2023)

for Glove Puppetry and Symphony Orchestra

Co-performers : Huazhou Yuan Glove Puppet Theater

(Commissioned by the Taipei Philharmonic Orchestra,

sponsored by The National Culture and Arts Foundation)

Yuzo Toyama (1931-2023)

Concerto no.2 for

Violin and Orchestra op.60

Solo Violin : Koji Morishita

I. Allegro moderato

II. Presto scherzando

III. Lento assai— Allegro molto

Intermission

L. van Beethoven (1770-1827)

Symphony No. 5

in c minor, op.67

I. Allegro con brio

II. Andante con moto

III. Scherzo: Allegro

IV. Allegro



作曲家
鍾耀光

作曲家

鍾耀光 Yiu-Kwong Chung

「鍾耀光是一位講故事的大師，作品非常大膽感性，通常很可能淪為虛假俗套，但他的作品不會……一個要注意的名字。」

Ruth Wilson, wasbe.org

「鍾耀光的作品是如此受到矚目且令人回味再三，在古典音樂的概念中，他是一位真正的作曲家。……很難想像到，任何一位敏感的聽眾不隨這協奏曲而動容。」

Raymond Tuttle, FANFARE

從2022年4月開始，成為世界著名樂譜出版社Universal Edition作曲家。曾任臺灣藝術大學音樂系教授與臺北市立國樂團團長。從2007年至2015年擔任團長八年內，曾為國際著名打擊樂家Evelyn Glennie, 長號名家Christian Lindberg, 薩克斯風名家Claude Delangle, 大提琴家Mischa Maisky與Anssi Karttunen, 長笛名家Pierre-Yves Artaud與Sharon Bezaly、美國知名弦樂四重奏Kronos Quartet 創作協奏曲，由臺北市立國樂團作世界首演。2012年6月帶領並指揮臺北市立國樂團歐洲巡迴，在曼徹斯特Bridgewater

Hall與巴黎Théâtre du Châtelet(夏特雷劇院)等著名音樂廳演出；2014年10月又受邀赴香港與澳門音樂節演出。此外，在2009到2015六年內，為樂團製作6張CD由瑞典BIS唱片公司錄音並全球發行，創造出這項台灣音樂史上很難被打破的紀錄，同時讓臺北市立國樂團的國際知名度大幅提昇。

曾榮獲2013年第24屆金曲獎最佳作曲人獎和2008年第19屆金曲獎最佳編曲人獎。2010年為世博臺灣館4D電影《自然城市》創作配樂。2000年3月，大型國樂團作品《永恆之城》在香港奪得香港中樂團21世紀國際作曲比賽原創組冠軍。二首具創意與充滿活力的小品《大地之舞》與《草螟弄雞公》由馬友友擔任大提琴獨奏，收錄在臺灣SONY 唱片公司發行的《超魅力馬友友》專輯中。

鍾耀光於2022年自國立臺灣藝術大學退休後，創作數量更多，並致力研發木琴多棒演奏技術。

作曲

鍾耀光 Yiu-Kwong Chung

「鍾耀光は、物語を語る達人であり、彼の作品は非常に大胆で感性に富んでいます。そのような作品は通常、陳腐で偽りがちですが、彼の作品はそうではありません..注目すべき名前です。」

Ruth Wilson, wasbe.org

「鍾耀光の作品は非常に注目され、繰り返し味わうほどの深みがあります。古典音楽の概念において、彼は真の作曲家とも言えます...感受性豊かな聴衆がこの協奏曲に感動しないと想像することは難しいです。」

Raymond Tuttle, FANFARE

2022年4月から、鍾耀光は世界的に有名な楽譜出版社であるユニバーサル・エディションの作曲家として活動しています。彼は台湾芸術大学音楽学部の教授や台北市立国楽団(TCO)の団長を務めたことがあります。団長としては、2007年から2015年までの8年間、国際的に著名な打楽器奏者エヴェリン・グレニーやトロンボーン奏者のクリスチャン・リンドバーグ、サクソフォーン奏者のクロード・デラングル、チェリストのミーシャ・マイスキーとアンシ・カルトゥネン、フルート奏者のピエール＝イヴ・アルトールとシャロン・ベザリー、そしてアメリカの著名な弦楽四重奏団クロノス・カルテットのために協奏曲を作曲し、それらはすべてTCOによって世界初演されました。2012年6月には、TCOを率いてヨーロッパツアーを行い、マンチェスターのブリッジウ

ォーターホールやパリのテアトル・デュ・シャトレなどで公演を行いました。2014年10月には、香港やマカオの音楽祭に出演する機会も得ています。2014年10月には香港やマカオの音楽祭にも出演しました。また、2009年から2015年にかけての6年間で、彼はTCOのために6枚のCDを制作し、これらはスウェーデンのBISレコード社で録音され、世界中でリリースされました。これは台湾音楽史上破られない記録を樹立し、TCOの国際的な知名度を大きく高めました。

鍾耀光は、2013年の第24回金曲賞（台湾のグラミー賞）で最優秀作曲賞、2008年の第19回金曲賞で最優秀編曲賞を受賞しました。また、2010年には上海万博台湾館の4D映画『自然都市』の音楽を作曲しました。2000年3月には、彼の「永遠の都市」は香港中華楽団が開催した21世紀国際作曲コンクールのオリジナル部門で第1位を獲得しました。また、大胆でエネルギッシュな2つの作品『大地の踊り』と『台湾の幼子たちの歌』は、ヨーヨー・マがチェロ独奏を務め、台湾ソニー・ミュージックからリリースされた『至上の魅惑：ヨーヨー・マ・アルバム』に収録されました。

鍾耀光は、2022年に国立台湾芸術大学を退職した後、より多くの作品を創作し、木琴の演奏技術の開発に専念しています。

樂曲解說

鍾耀光

《媽祖傳奇》(2023) 給掌中戲與管弦樂團

(台北愛樂管弦樂團委託創作，本作品由財團法人國家文化藝術基金會贊助)

《媽祖傳奇》是一部描述媽祖（林默娘）能夠妖除魔、預言氣象，並多次解救海難災民的管弦樂作品。這部作品共分爲三段，每一段都描繪了不同的故事情節，展現了媽祖的神奇能力和對人類的慈悲護佑。第一段：這一段描寫捕魚季節已到，漁民準備好器材出海抓魚。第二段：這一段漁民出海捕魚，但船隻遭遇了凶險的風浪和水妖的襲擊，媽祖與水妖海大王以及龜大王的對決。媽祖最後展現出她驅邪降妖的能力，與水妖進行一場

激烈的戰鬥，最終成功斬殺水妖，拯救了漁民們免於災難。這一段音樂緊張激昂，彷彿帶領著觀眾與媽祖一同經歷危險與勝利。第三段：這一段描述了媽祖在民間的崇拜和迎接。媽祖的信仰已經成爲台灣民間最普遍的信仰，各地都建有祭祀媽祖的廟宇。每年農曆三月二十三日，也就是媽祖的誕生日，舉行隆重的媽祖遶境活動。這段音樂充滿喜慶和歡樂的氛圍，鑼鼓喧天，炮仗震地，是一篇遶境音樂的北管樂章。

鍾耀光

『媽祖傳奇』

台北フィルハーモニー管弦楽団からの委託により創作された『媽祖傳奇』は、媽祖が魔除けや天候予知を行い、海難の被災者を救う管弦楽曲です。この作品は三つの部分に分かれており、各セクションでは異なるストーリーが描かれ、媽祖の神秘的な能力と人類への慈悲深い加護が示されています。第一部では、漁季が訪れ、漁師たちが漁に出る準備をしています。第二部では、漁師たちが海に出て漁をしようしますが、船が危険な嵐と海妖の襲撃に遭遇します。媽祖は海妖と龜大王との対決に挑みます。媽祖は邪悪なものを退治する能力を見せ、海妖と激しい戦いを

繰り広げ、最終的に海妖を討ち取り、漁民たちを災難から救います。この部分の音楽は緊張感と興奮に満ちており、観客を媽祖と共に危険と勝利を体験させるような雰囲気です。第三部では、媽祖の民間での崇拜と歓迎が描かれています。媽祖への信仰は台湾の民間で最も普及しており、各地に媽祖を祭る神社が建てられています。毎年、農曆3月23日、つまり媽祖の誕生日には、媽祖の巡航行事が盛大に行われます。このセクションの音楽は、喜びと歓喜の雰囲気に溢れ、太鼓や鑼が鳴り響き、爆竹が轟く中、媽祖の巡航行事の音楽章となっています。

外山雄三 (1931-2023)

《第二小提琴協奏曲》op. 60

作曲家以及NHK交響樂團官方指揮外山雄三先生於2023年7月11日因慢性腎臟病在長野縣的家中去世，享年92歲，對日本音樂界來說是一件哀痛的事。他的作品以交響曲和交響詩為主，這些作品的靈感大多來自日本地方的特色音樂與歌謠。例如外山的成名作《管弦樂狂想曲》(1960)，就引用了熊本地區的肥後童謠《你在哪裡》、來自北海道歌謠的《索蘭船歌》和福岡地區歌謠《炭坑節》。作曲家外山雄三本來就是一個不同的人，多年來，他一直致力於日本西樂所面臨的獨特問題：如何解決與整合，作為文化多元化實體的日本傳統音樂與西方管弦樂之間的衝突。

外山早期的代表作之一《第一小提琴協奏曲》(1963年，尾高賞得主)和《小提琴奏鳴曲》(1964年)也是這種解決與整合的結果，而《第二小提琴協奏曲》(1966年)則是後者的改寫，由小提琴與鋼琴的奏鳴曲變成協奏曲。不過，用外山自己的話來說，協奏曲的管弦樂團並不是對奏鳴曲鋼琴聲部的替代；相反的，原本奏鳴曲鋼琴聲部的想法就起源於管弦樂團的聲響概念。這首協奏曲整體結構為傳統的三樂章設計，但最後樂章

由充滿日本情感的緩慢慢板樂章和快速尾聲組成。

第一樂章，節制的快板Allegro moderato，4/4拍。在簡短的音符之後，小提琴獨奏引入了呈示部的第一主題。西方的和聲與偏離西方和聲的狂野旋律之碰撞令人印象深刻。第二主題以豎琴和弦為背景，曲調更像民謠。

第二樂章，詼諧風的急板Presto scherzando，3/4拍。小提琴獨奏以豎琴和單簧管的重複樂句為中心，繼續演奏無窮動的快速樂段，偶爾重疊一段二拍子的兒歌主題。相較之下，中段則是以奔放的民歌旋律為主題。

第三樂章，非常慢的緩板—很快的快板Lento assai—Allegro molto，4/4拍子。小提琴獨奏在夜曲般平靜和弦的支撐下，用撥奏營造出三味線般的聲音，然後繼續演奏與第一樂章相關的主題。隨後，音樂突然轉變為第二樂章的快板音樂，最後華麗地再現了第一樂章的第一主題，兩條旋律以交疊的方式呈現，直到樂曲終止。

外山雄三(1931-2023)

ヴァイオリン協奏曲第2番作品60

NHK交響樂團正指揮者の外山雄三氏は、2023年7月11日、慢性腎臓病のため長野県の自宅で逝去されました。享年92。彼の創作ジャンルの中心である交響曲や交響詩は、多くが作曲契機になった日本各地の地名をタイトルとしている。外山の出世作《管弦楽のためのラプソディー》(1960)が、「あんだがたどこさ」「そうらん節」「炭坑節」を引用していたように、作曲家・外山雄三は、本来は異質な文化どうしである日本の伝統音楽と、西欧オーケストラ音楽との対立をいかに解決し統合していくか、という日本の洋楽固有の問題に、長年にわたって取り組み続けてきた。

外山の初期の代表作の一つ〈ヴァイオリン協奏曲第1番〉(1963、尾高賞受賞)や、《ヴァイオリン・ソナタ》(1964)もこうした探究の成果であり、《ヴァイオリン協奏曲第2番》(1966)は、後者を協奏曲に改編した作品である。しかし外山自身の言葉によれば、それはピアノ部分の置き換えではなく、逆にソナタのピアノパートの発想の根源に、オーケストラの響きがあったという。全体は伝統的な3楽章制だが、終楽章は日本的情绪に溢れたレ

ントの緩徐楽章と、急速なコーダからなる。

第1楽章、アレグロ・モデラート、4分の4拍子。短い序奏の後、ヴァイオリン独奏が第1主題を提示する。西洋風の和音と、そこから逸脱する野性的な旋律との衝突が印象的だ。ハープの和音を背景にした第2主題は、より一層民謡風の節まわしをもつ。

第2楽章、プレスト・スケルツァンド、4分の3拍子。ハープとクラリネットの反復句を軸にして、ヴァイオリン独奏が無窮動的パッセージを奏しつづけ、時折、わらべ歌風の2拍子の主題が重なる。中間部では対照的に、民謡調の歌が開放的に歌われる。

第3楽章、レント・アッサイ〜アレグロ・モルト、4分の4拍子。落ち着いたノクターン風の和声に支えられて、ヴァイオリン独奏がピチカートで三味線風の響きを醸しだし、つづいて第1楽章と関連した主題を歌い継いでいく。すると突然、第2楽章のアレグロの音楽に変わり、最後に第1楽章第1主題が堂々と再現され、畳み掛けるように結ばれる。



作曲家/指揮家
外山雄三

小提琴家
森下幸路

貝多芬

c小調第五號交響曲 op.67 《命運》

貝多芬的第五號交響曲創作於1804到1808年間，但是構成樂曲最重要的動機—三短一長的節奏雛形，早在在他1795年的草稿中就出現了，這也印證了貝多芬創作的苦心琢磨、音音推敲的嚴謹與堅持精神，而「命運」的由來，是貝多芬友人辛德勒 (Anton Schindler, 1795-1861) 宣稱他詢問貝多芬這段動機的涵義時，貝多芬猶豫了一下，然後回答：「命運之神就是如此敲門的。」以至於之後就有了「命運」這個標題，但是貝多芬並未在總譜上標示任何關於「命運」的字眼，原典板的總譜，仍然以《第五號交響曲》為曲名，因此「命運」只是後世對這首樂曲浪漫的附會了。

第一樂章 燦爛的快板 奏鳴曲式

三短一長的動機在樂章中無所不在，特別是在樂曲開頭就以延長記號來處理長音符，這種前所未有的交響曲開頭第一主題，想必就像他的第三號交響曲第一樂章開頭的那兩響強奏和弦一般，在首演時給維也納聽眾帶來無比的震撼。降E大調第二主題由法國號的動機強奏前引，在弦樂柔和的長樂句呈現，貫穿全曲的三短一長動機則潛伏在大提琴與低音提琴聲部。緊密的動機堆疊與快速的2/4拍子，讓樂章始終保持著緊迫的張力，直到再現部出現一小節雙簧管宣敘調般的獨奏，才讓聽者有片刻喘息的空間。

第二樂章 稍活躍的行板 主題與變奏曲式

降A大調的A主題由中提琴與大提琴主奏，是弱起拍的抒情旋律，緊接著的C大調B主

題由管樂主奏，並將三短一長節奏融入其中，像是一段高昂的號角信號曲。在之後的變奏中，A主題不斷的展開變化，而B主題則維持著基本的旋律型態，音量逐次增強。在貝多芬的創作生涯，變奏曲一直是他愛用的形式，本樂章充分顯現他對於旋律變奏展開與配器運用的精妙之處。

第三樂章 快板 詠諧曲

詠諧曲樂段從低音湧現的弱音上行旋律，引導出法國號強奏的三短一長動機。本樂段呈現出斷奏與連奏的運音對比以及節奏重音交錯的曲趣。Trio中段為粗曠的大提琴主題，以短賦格的聲部模仿方式展開，帶著粗曠與率直的性格，樂章詠諧曲再現的樂段是以弦樂撥弦與木管段奏的弱音呈現，巧妙的作為不間斷進入第四樂章的橋段。

第四樂章 快板 奏鳴曲式

由前樂章尾段的漸強音帶出的C大調第一主題，高昂的號角與樂團合奏，搭配著精神奕奕的附點節奏，如一首勝利的凱歌，展現樂曲「突破黑暗，迎向光明」的氣勢。G大調的第二主題是三短一長動機的壓縮串聯，充滿著向前的推力。發展部主要以第二主題為基礎，搭配著第一主題後段作調性變化與動機發展。在再現部之前，利用第三樂章的片段作為橋段，銜接到第一主題的再現，充分展現作曲家的巧思，也讓樂曲的結構更為緊密與豐富。樂曲在再現部之後加快速度的尾段，以急板(Presto)的加速度，急速奔馳至八響強音終止和弦，狂喜的結束全曲。

ベートーヴェン

交響曲第5番ハ短調 作品67 「運命」

ベートーヴェンの交響曲第5番は1804年から1808年にかけて創作されました。しかし、この楽曲の最も重要な動機である三つの八分音符と一つの二分音符からなるリズムパターンは、1795年の彼の草稿で既に現れており、これはベートーヴェンの創作の精緻さと音楽の熟考、そして堅実な精神を証明しています。そして「運命」の由来は、ベートーヴェンの友人であるアントン・シンドラー (Anton Schindler, 1795-1861) が彼にこの動機の意味を尋ねた際、ベートーヴェンがためらった後、「運命の神がこうして扉をたたくのだ」と答えたことに起因します。これにより後に「運命」というタイトルが付けられましたが、ベートーヴェンは総譜に「運命」という言葉を記していませんでした。原典版の総譜では依然として「交響曲第5番」という曲名が使用されており、「運命」は後世におけるこの楽曲への浪漫的な関連付けに過ぎません。

第一樂章: Allegro con brio ソナタ形式

三つの八分音符と一つの二分音符からなる動機はこの楽章中に至る所々で顕著であり、特に楽曲の冒頭で長音符を持続記号で扱った前例のない交響曲冒頭的第一主題は、おそらく彼の交響曲第3番の第一樂章冒頭のような2つの強奏和音と和音の響きを維持した状態で、初演時にウィーンの聴衆に強烈な印象を与えたことでしょう。変ホ長調の第二主題はホルンの動機が前奏し、弦楽器の優しい長い楽句で表現され、全曲に渡る三つの八分音符と一つの二分音符からなる動機はチェロと低音の楽句で隠れています。緻密な動機の重なりと速い2/4拍子により、この楽章は常に緊迫した状態を保ち、再現部で朗唱風なオーボエソロが現れるまで、一瞬息をつく時間を与えてくれません。

第二樂章: Andante con moto 主題と変奏曲形式

変イ長調のA主題はヴィオラとチェロの主奏により演奏され、抒情的なメロディーで弱い拍で始まります。直後のハ長調のB主題は木管楽器の主奏により演奏され、三つの八分音符と一つの二分音符か

らなるリズムが組み込まれ、壮大なファンファーレのような旋律が奏でられます。その後の変奏では、A主題が継続的に変化し、一方B主題は基本的なパターンを保ちつつ、音量が段々と増していきます。ベートーヴェンの創作活動において、変奏曲は彼が好んで使用した形式の一つであり、この楽章は旋律の変奏と管弦楽の巧みな使用を豊かに示しています。

第三樂章: Allegro Scherzo

スケルツォの楽節は低音から現れる弱音の上行旋律で始まり、フルートの強奏で三短一長の動機が現れます。この楽節では、断奏と連奏の運音の対比やリズムの強調が表現されており、楽曲の面白さが示されています。トリオの中間部は荒々しいチェロの主題で、短いフーガ風の声部模倣で展開され、荒々しさと率直さを持っています。この楽章の再現部は、弦楽器のピチカートと木管のソロが弱音で演奏され、巧妙に第四樂章への移行を担っています。

第四樂章: Allegro - Presto ソナタ形式

前樂章の終盤の徐々に強まる音から始まるハ長調の第一主題は、壮大なホルンと管弦楽の合奏により奏でられ、強力なリズムが伴った瞬間的なリズムで、勝利の凱歌のように、「闇を打破し、光へ向かう」楽曲の氣勢を示しています。ト長調の第二主題は第一樂章の三つの八分音符と一つの二分音符からなる動機の圧縮連鎖であり、前向きな推進力に満ちています。展開部は主に第二主題を基にしており、第一主題の後半部分の調性変化と動機の発展を伴っています。再現部の前に、第三樂章の断片が橋渡しとして使用され、第一主題の再現へとつながり、作曲家の巧妙さを十分に示し、楽曲の構造をより密接かつ豊かにしています。楽曲は再現部の後、急速なテンポで加速し、プレストの速度で急速に駆け抜けて、8つの強奏和音で終止し、狂喜の中で全曲が終わります。



首席指揮
林天吉

台北愛樂管弦樂團 首席指揮 Chief Conductor

林天吉 Paul Tien-Chi Lin

作為台灣中青一代最具代表性活躍的小提琴家及指揮家，林天吉師從指揮大師亨利·梅哲先生（Henry Mazer, 1918-2002），也是在台嚴選嫡系入室弟子。1999年以小提琴演奏最高滿分碩士畢業於國立臺北藝術大學音樂研究所。在國立台灣藝術專科學校（現國立台灣藝術大學）入學期間受梅哲賞識加入台北愛樂管弦樂團，1998年接棒指揮「提攜音樂會」，備受肯定。

自2001年起作為青年指揮家帶領台北愛樂管弦樂團遠征歐洲，9月「北歐巡演」至瑞典、芬蘭演出；2002年赴德國與捷克，並應「布拉格之春國際藝術節」之邀於魯道夫廳指揮演出；2003年8月指揮樂團於愛沙尼亞、芬蘭演出；2004年9月至「東歐巡演」至波蘭、匈牙利、捷克演出九場；2005年6月赴法國、斯洛伐克的音樂節演出。自2009年第一次赴中國大陸的上海、蘇州演出，受邀客席指揮的足跡曾至廈門、泉州、福州、廣州、東莞、深圳、大連、瀋陽等城市。

2017年4月，日本福島核災滿六年，台北愛樂管弦樂團首次赴東京及福島演出，撫慰災區學童。同年9月，香港《台灣之夜—為愛響起》音樂會，喚起大眾關懷貧困學生，帶領台北愛樂管弦樂團做公益演出。2018

年1月，赴廈門閩南大劇院演出中國作曲家鮑元愷《台灣音畫交響詩組曲》，推動兩岸文化交流。同年9月，台北國家音樂廳《未竟之境》音樂會演出創團音樂總監梅哲先生未盡之憾，完美詮釋馬勒第五號交響曲，因適逢梅哲先生百歲冥誕，現場使用高科技浮空投影技術加上特效裝扮，由林天吉在舞台上重現梅哲先生指揮風采。11月受韓國音樂協會之邀，赴首爾知名的樂天音樂廳演出，得到大韓民國國際音樂節觀眾一致讚譽，接著邀請韓國音樂家於2019年3月來台合作演出，推動台韓音樂雙向交流。2020年12月17日貝多芬250歲誕辰當日，帶領台北愛樂及節慶合唱團演出《合唱》交響曲獲得極高評價。2021年9月3日演出馬勒第六號交響曲及2022年6月14日演出阿依達歌劇音樂會，二場演出均完美呈現出梅哲大師生前未完成的遺願，並完結大師的願望清單。

深得梅哲精髓的音樂詮釋，使得林天吉深受國內外樂評家認可，常受邀客席指揮國內與國外各大樂團，推展不同風格的古典音樂不遺餘力。現任台北愛樂管弦樂團首席指揮，積極帶領台北愛樂管弦樂團到國際上演出，傳揚台灣優質的樂音與本土文化，發揚「梅哲之音」。

台北フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者

林天吉 Paul Tien-Chi Lin

台湾で最も代表的で活躍するヴァイオリニストおよび指揮者として、林天吉は指揮の巨匠ヘンリー・メイザー氏（Henry Mazer, 1918-2002）に才能を見出され師事しました。1999年、国立台北芸術大学音楽研究所でバイオリン演奏で最高評価にて修士号を取得。国立台湾芸術専科学校（現国立台湾芸術大学）入学中にメイザー氏に認められ、台北フィルハーモニー管弦楽団に入団。1998年、提携音楽会の指揮を引き継ぎ、高い評価を受けました。

2001年から若手指揮者として台北フィルハーモニー管弦楽団を率いてヨーロッパツアーを開始。9月の「北歐ツアー」ではスウェーデンとフィンランドで公演。2002年にはドイツとチェコへ渡り、「プラハの春国際芸術祭」に招待されドルフィヌムで指揮を担当。2003年8月にはエストニアとフィンランドで楽団を指揮。2004年9月には「東欧ツアー」でポーランド、ハンガリー、チェコで公演を行いました。2005年6月にはフランスとスロバキアの音楽祭に出演。2009年からは中国本土で上海、蘇州などで公演し、客演指揮として廈門、泉州、福州、広州、東莞、深セン、大連、瀋陽などの都市を訪れました。

2017年4月、日本での東日本大震災から6年が経過し、台北フィルハーモニー管弦楽団は東京および福島で公演を行い、被災地の子供たちを慰問しました。同年9月、香港で「台湾の夜 - 愛の響きのために」と題されたコンサートが開催され、貧困の学生たちへの関心を引き起こし、台北フィルハーモニー管弦

楽団を率いてチャリティーコンサートを行いました。2018年1月には廈門の閩南大劇院で、中国の作曲家・鮑元愷の「台湾音画交響詩組曲」を演奏し、兩岸の文化交流を推進。同年9月には台北国家音楽ホールで「未完の旅」コンサートが開催され、初代音楽監督のメイザー氏の未完の思いを託しマーラーの交響曲第5番を完璧に表現しました。この公演は、メイザー氏が生誕100周年に当たり、「エア・フローティング・メディア」を駆使し、林天吉がステージ上でメイザー氏の指揮のスタイルを再現しました。12月には韓国音楽協会の招待により、ソウルの名立たるロッテホールで公演し、韓国の聴衆から高い評価を得ました。その後、2019年3月には韓国の音楽家を招聘して台湾で共演し、台湾と韓国の音楽交流を推進。2020年12月17日、ベートーヴェン生誕250周年の日に台北フィルハーモニー管弦楽団と祝祭合唱団を率いて「合唱」交響曲を演奏し、非常に高い評価を受けました。

メイザー氏の音楽的解釈の真髓を深く理解し、林天吉は国内外の音楽評論家から高い評価を受けており、国内外の主要なオーケストラから客演指揮として頻りに招かれており、さまざまな古典音楽のスタイルを推進しています。現在は台北フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務め、同団を国際舞台に導き、台湾の優れた音楽と地域文化を広め、「メイザー氏の音」を広めています。

2016年以降、林天吉は中国文化大学音楽学部で准教授として教鞭をとっています。



小提琴獨奏
森下幸路

小提琴獨奏

森下幸路 Koji Morishita

森下幸路 (Koji Morishita) 自幼習琴，八歲時即與美國紐奧良愛樂交響樂團合作演出，早年所顯露的過人音樂天賦即受到高度的注目與期待，森下幸路畢業自日本音樂名校桐朋學園大學，在學期間曾獲獎學金。受邀赴美國辛辛那提音樂學院，跟隨知名小提琴教育家迪蕾學習，並獲頒「最優秀賞」。返日後立即加入由著名大提琴家安田謙一郎組成的弦樂四重奏，並與鍵盤大師小林道夫展開一系列全國巡迴音樂會。1989年受邀加入由指揮大師小澤征爾召集的「齋藤紀念管弦樂團」於歐美各國演出。

自1994年起，森下幸路每年定期於日本舉行個人獨奏會，並與日本國寶級吉他大師福田進一合作，錄製小提琴與吉他二重奏專輯「布宜諾賽利斯組曲」，巡迴12個城市演出，發表許多日本首演的作品，所到之處皆獲得熱烈的歡迎。森下幸路發行過多張佳評如潮的個人獨奏專輯：「夢」、「如歌的Cantabile」，其充滿豐富想像力與光澤甜美的音色獲得樂界極高的聲譽。目前森下幸路擔任大阪交響樂團首席，同時受聘為大阪音樂院特聘教授。

ヴァイオリニスト

森下幸路 Koji Morishita

京都市生まれ。桐朋学園大学卒業，米国シンシナティ大学特別奨学生としてドロシー・ディレー女史に学ぶ。96年から毎年のリサイタルシリーズを始め、97年にはスペインのセヴィリア、2011年より毎夏北ドイツ音楽祭、13年からたびたび台湾に招かれ、14年にはガーク音楽祭(オーストリー)にも出演。15年にはバルカン室内管弦楽団のゲストコンサートマスターに招かれ、18年、19年にはモスクフでのコンサートを成功させた。2000年まで仙台フィル、現在は大阪交響楽団首席ソロコンサ

ートマスターおよび浜松フィルのコンサートマスターの任にある。ソロアルバムCDは「La vie」「esprit」

※レコード芸術誌特選盤、「彩り<Couleur>」、「タベのうた」「夢」、「カンタービレ」、デュオアルバム「プエノスアイレス組曲」や「アヴェマリア」をリリース。大阪音大特任教授をつとめている，使用楽器は將軍堂 (Mr.H. Hiruma) 貸与の Antonio Stradivari "Reichardt"1680



華洲園布袋戲團 Huazhou Yuan Glove Puppet Theater

【華洲園布袋戲團】是團長林振森於1965年創立，在林阿三先生領導下，以精湛的表演從廟會野台進入到城市劇院和學術殿堂，更進一步拓展到國際舞台之上。除了在國內屢獲殊榮，大放光芒，華洲園布袋戲團更多次應邀赴海外參與各項國際演出，足跡遍及法

國、西班牙、瑞典、荷蘭、德國、美國、加拿大、南非、澳洲、日本、泰國、香港、新加坡、中國大陸、南韓、巴拿馬、尼加拉瓜、哥斯黎加等歐、美、非、澳、亞五大洲重要國家，每一場演出均深獲中外人士一致的好評，建立起良好的聲譽。

華州園人形劇団 Huazhou Yuan Glove Puppet Theater

【華州園人形劇団】は、1965年にリーダーの林振森氏によって設立され、林阿三氏の指導の下、廟市の野外ステージから、精緻なパフォーマンスで都市劇場や学術ホールへと舞台を移し、さらに拡大してきました。国際舞台へ。華州園人形劇団は数多くの賞を受賞し、国内で輝かしい輝きを放つだけでなく、海外のさまざまな国際公演に何度も招待され、フランス、スペイン、スウェーデン、オラ

ンダ、ドイツ、アメリカなどに旅行しました。カナダ、南アフリカ、オーストラリア、日本、タイ、香港、シンガポール、中国本土、韓国、パナマ、ニカラグア、コスタリカ、その他ヨーロッパ、米国、アフリカ、オーストラリア、アジアの重要な国での公演。中国人や外国人から満場一致で賞賛され、良い評判を確立しました。

華洲園布袋戲團



樂團首席
蘇顯達

樂團首席

蘇顯達 Shien-Ta Su

五歲開始學琴，畢業於法國巴黎師範音樂院，獲最高級小提琴及室內樂獨奏家文憑，師承謝霖(H. Szeryng)與普雷(G. Poulet)，深受其紮實內斂音樂表現所影響。留法時除擔任巴黎師範音樂院樂團首席外，亦被百年歷史的巴黎市Concerts Lamoureux交響樂團錄取為正式團員。返國後除與國內各大樂團外，亦曾和紐約愛樂室內樂團、俄羅斯國家管弦樂團與英國室內樂團合作演出協奏曲。

1995年榮獲中華民國十大傑出青年。1999年灌錄的《台灣情・泰然心—蕭泰然小提琴作品》專輯、2001年《古典台灣風情—黃偉小提琴小品精選》CD，分別獲得「最佳古典唱片」與「最佳演奏人」金曲獎。2016年獲有「民間國家文藝獎」之稱的吳三連獎「藝術獎」殊榮，為該獎首位得獎的演奏家。2000年、2016年曾分別獲邀於總統副總統就職大典與國宴中演奏，也五度應邀至總統府演出。

1996年灌錄奇美《名琴・名曲的饗宴四》、1997年《蘇顯達與葉登民—小提琴與吉他黃金二重奏》、2016年《蘇顯達的魔法琴緣—真情台灣》、2018年《花之夢》以及2022年《拾光。電影故事》等專輯CD，皆入圍金曲獎最佳演奏人獎。

自法返國30多年來，每隔五年舉辦全台巡迴獨奏會，皆獲巨大迴響，最近一次為2021年「蘇顯達自法返國35年」巡迴獨奏會。其投身音樂教育亦不遺餘力，2017-2023年曾任國立臺北藝術大學音樂學院院長，並榮獲「教學優良教師」、「終身特聘教授」肯定，現為音樂學系專任小提琴教授、台北愛樂管弦樂團樂團首席與藝術總監、愛樂電台「迷人的小提琴世界」節目主持人。蘇顯達每年演出邀約超過40場，琴藝深獲聽眾喜愛。

コンサートマスター

シエン・ター・ス Shien-Ta Su

五歳からヴァイオリを学び、フランスのパリ・エコールノルマル音楽院を卒業し、最高位のヴァイオリと室内楽のソリストのディプロマを取得。ユダヤ系ポーランド出身のヘンリック・シュリング(H. Szeryng)とジョルジュ・プーレ(G. Poulet)に師事し、その実力派で内省的な音楽表現に深く影響を受けました。フランス滞在中には、パリ・エコールノルマル音楽院オーケストラの首席を務めるとともに、100年以上の歴史を持つパリ市コンサート・ラムル交響楽団の正式メンバーとして選ばれました。帰国後、国内の各大オーケストラと共演するかたわら、ニューヨーク・フィルハーモニック室内楽団、ロシア国立交響楽団、イギリス室内楽団といった団体と協演し、協奏曲を演奏しました。

1995年に中華民国(台湾)十大傑出青年に選ばれ、1999年には「台湾情・泰然心—蕭泰然小提琴作品」アルバムで、2001年には「古典台湾風情—黃偉小提琴小品精選」CDで、それぞれ「最優秀クラシックレコード」および「最優秀演奏者」の金曲獎(台湾グラミー賞)を受賞。2016年には「吳三連賞アート賞」を受賞し、「最初の受賞演奏家」となりました。2000年と2016年には大統領および副大統領の就任式および国宴で演奏するた

めに招かれ、また5回にわたり総統府で演奏しています。

1996年には奇美「名琴・名曲の饗宴四」、1997年には「蘇顯達と葉登民—小提琴とギターの黄金二重奏」、2016年には「蘇顯達の魔法のヴァイオリ縁—真情台湾」、2018年には「花の夢」、そして2022年には「拾光。映画の物語」などのアルバムCDが、すべて金曲獎(台湾グラミー賞)最優秀演奏者賞にノミネートされました。

フランスから帰国して30年以上、5年ごとに全台巡回独奏会を開催し、大きな反響を呼んでいます。最後のものは2021年の「蘇顯達自法返國35年」巡回独奏会です。音楽教育にも熱心に取り組んでおり、2017年から2023年まで国立台北芸術大学音楽学院の学院長を務め、優れた教師として「教学優良教師」および「終身特聘教授」の肩書きを得ています。現在は音楽学科のヴァイオリ専任教授、台北愛樂管弦楽団の首席および芸術總監(アートディレクター)、愛樂ラジオの「魅力的なヴァイオリの世界」の番組司会を務めています。蘇顯達氏は毎年40回以上の演奏の招待を受け、彼の演奏技術は多くの聴眾に愛されています。



台北愛樂管弦樂團
(Taipei Philharmonic Orchestra, TPO)

台北愛樂管弦樂團 (Taipei Philharmonic Orchestra, TPO)

創立於1985年，原名台北愛樂室內樂團，由創辦人賴文福與俞冰清，以及一群愛樂社會菁英共同創立。多年來樂團仰賴樂友們的支持、企業贊助以及政府補助，從最初2、30人的小型室內樂團，1991年擴編更名為台北愛樂室內及管弦樂團，至今更擴展為「台北愛樂管弦樂團」。台北愛樂的演出成就主要奠基於已故的首任音樂總監亨利·梅哲的音樂素養。他以嚴格的訓練方式，淬鍊團員們細膩完美的音樂性，1990年樂團首次前往美加巡演，贏得當地媒體「島嶼的鑽石」的稱譽。1993年6月13日樂團遠赴奧地利於維也納愛樂金色大廳演出，創下華人樂團首次登上這世界音樂最高殿堂的紀錄。2002年8月梅哲先生以85歲高齡辭世，樂團由入室弟子林天吉接下客席指揮的擔子，持續在樂壇發光發熱。2003俄羅斯

音樂家亞歷山大·魯丁（Alexander Rudin）接下音樂總監的棒子，一方面延續梅哲之音，一方面帶領樂團邁向國際與多元發展。2006年起，由林天吉擔任台北愛樂管弦樂團駐團指揮。2007年5月6日成立台北愛樂室內樂坊，將樂團演出的觸角向下延伸至室內樂的領域。為了記錄多年來所努力的成績，也為了紀念繞樑不絕的「梅哲之音」，台北愛樂成立「台北愛樂暨梅哲音樂文化館」（TPO & Henry Mazer Musical Centre），於2007年5月7日開幕，在原本的排練及辦公室內，設置包含指揮棒、樂譜、樂評、照片等梅哲相關文物的展示空間，同時保留排演廳，並辦理室內樂集，藉以推動「社區音樂」教育與交流。台北愛樂除了在大都市的舞臺演出外，其音樂觸角遍及全國各鄉、鎮、社區、校園。除了定期音

樂會演出以亦參與各種異業結合之演出，如電影《臥虎藏龍》、《鐵達尼號》現場之配樂演出，或是英國廣播公司《British Broadcasting Corporation, BBC》地球脈動節目之管弦樂配樂現場演出。為了成為東亞各城市管弦樂團的交流平台，台北愛樂管弦樂團於2021年10月8日於台北舉辦「東亞樂派論壇籌備會」，並於2022年舉行「第一屆東亞樂派論壇」，聯合臺、港、日、韓的作曲家以及音樂協會、樂團之決策者，發表研究論文及心得，為創造東亞管弦樂團新的方向與契機作進一步的合作。2021年11月《台北愛樂雙季刊》於台北出版，半年一期的期刊，創民間樂團定期出版期刊雜誌之先河，2022年5月1日團長賴文福專任樂團代表人並正式將團長交棒，由前國科會主委、中研院李羅權院士繼任團長，熱愛音樂的李

院士在科學領域之研究受到國際推崇，講科學的精神帶領樂團大步向前。台北愛樂多年來數次遠征歐、美各大重要音樂廳，包括波士頓交響音樂廳、甘迺迪中心、魯道夫音樂廳、史麥塔納廳、李斯特音樂廳、聖彼得堡愛樂廳、莫斯科國際音樂廳、華沙愛樂廳、克拉科夫愛樂音樂廳、斯德哥爾摩音樂廳、赫爾辛基岩石教堂、芬蘭廳、維也納愛樂廳等。曾經參加華沙之秋音樂節、布拉格之春藝術節、布拉格靈樂節、瓦洛克勞國際音樂節、拜葛席茲音樂節、克拉科夫音樂節、布達佩斯音樂週、比利時安特衛普音樂節等，是國家文化藝術基金會連續年度「TAIWAN TOP演藝團隊」獲獎團隊。

（余濟倫撰、台北愛樂管弦樂團編修）

台北フィルハーモニー管弦楽団 (Taipei Philharmonic Orchestra, TPO)

1985年に台北フィルハーモニー管弦楽団として設立され、創設者である頼文福と俞冰清が音楽愛好家たちとともに設立したオーケストラです。

長年にわたり、オーケストラはミュージシャン、企業スポンサー、および政府の補助金の支援で活動してきました。2名から30名の小さな室内オーケストラから、1991年に台北フィルハーモニー室内管弦楽団、そして現在は台北フィルハーモニー管弦楽団へと、音楽家、企業スポンサー、政府補助金などの支援により、長年にわたり成長を続けています。

台北市交響楽団の演奏実績は、主に故・初代音楽監督、ヘンリー・メイザーさんの音楽の素養から成り立っています。彼の厳しい訓練により、メンバーの音楽性は完璧なまでに磨かれ、1990年には初めてアメリカ・カナダツアーを行い、地元メディアから「島のダイヤモンド」と賞賛されました。1993年6月13日、オーストリアに渡り、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の黄金のホールで演奏した。華人のオーケストラが世界の音楽の最高峰のホールで演奏したのは初めてのことでした。2002年8月、メイザー氏が85歳で他界すると、弟子の林天吉が客演指揮者を引き継ぎ、音楽シーンで輝きを放ち続けています。

2003年、ロシアの音楽家アレクサンダー・ルーディン（Alexander Rudin）が音楽監督のバトンを受け継ぎ、メイザーの音楽を継承しつつ、オーケストラを国際的で多様な旅へと導きました。2006年からは、台北フィルハーモニー管弦楽団の専属指揮者を務めている。2007年5月6日、台北フィルハーモニー室内管弦楽団が設立され、室内楽の領域にも進出しました。

台北フィルハーモニー管弦楽団は、長年の功績を記録し、「メイザー・サウンド」を記念するために、TPO & Henry Mazer Musical Centreを設立しました。2007年5月7日にオープンしたこの展示場では、オリジナルのリハーサルやオフィススペースに、指揮者棒、楽譜、音楽評論、写真など、ヘンリー・メイザー関連の遺品が展示されています。また、リハーサルホールの整備や室内楽曲集の運営など、「地域音楽」の教育や交流を推進しています。大都市のステージで演奏するだけでなく、台北フィルハーモニー管弦楽団の音楽は全国の村、町、コミュニティ、学校までも広がり音楽をの素晴らしさを伝えています。定期的なコンサート公演に加え、映画『クラウチング・タイガー、ヒドゥン・ドラゴン』や『タイタニック』のライブ・サウンドトラック、BBCの番組『アースパルス』のオーケストラ・ライブ・サウンド

トラックなど、業界を超えたさまざまな制作に携わっています。台北フィルハーモニー管弦楽団は、東アジアのオーケストラ間の交流のプラットフォームとして、2021年10月8日に台北で「東アジア音楽フォーラム」、2022年に「第1回東アジア音楽フォーラム」を開催し、台湾、香港、日本、韓国の作曲家、音楽協会やオーケストラの意思決定者が集まり、研究論文や東アジアオーケストラの新しい方向性と機会の創出に向けたさらなる協力のアイデアを発表しました。2021年11月、台北で市民オーケストラが1年に2回定期的に出版する週刊誌「台北フィルハーモニー・クォーター」が出版されました。2022年5月1日、ライ・ウェンフー監督がオーケストラの代表に就任し、後任の元国家科学委員会委員で中央研究院会員の李羅權学者に正式にバトンを渡しました。音楽を愛するこの学者は、科学分野の研究で国際的に尊敬を集めており、その科学的精神はオーケストラを前進させました。

過去、台北フィルはボストン交響ホール、ケネディセンター、ルドルフィヌム、スメタナホール、リストホール、サンクトペテルブルグフィルハーモニーホール、モスクワ国際コンサートホール、ワルシャワフィルハーモニーホール、クラコフフィルハーモニーホール、ストックホルム

コンサートホール、フィンランドホール、ウィーンフィルハーモニーホールなど欧米の主要コンサートホールへの遠征を何度も経験しています。ワルシャワ秋音楽祭、プラハ春音楽祭、プラハ音楽祭、ヴァロクロー国際音楽祭、バイガシュ音楽祭、クラコフ音楽祭、ブダペスト音楽週間、ベルギーのアントワープ音楽祭に参加し、国立文化芸術基金の「TAIWAN TOP舞台芸術団体賞」を連続受賞しました。

作：余濟倫

編集：台北フィルハーモニー管弦楽団

團員名錄

指揮 指揮者

林天吉

樂團首席 コンサートマスター

蘇顯達

第一小提琴 第一ヴァイオリン

蘇顯達 詹青青 余道明 陳怡安 陳玉芳

陳恩加 周海鳴 陳玉芬 陳仕杰 曾凌宇

第二小提琴 第二ヴァイオリン

朱育佑 柯淑馨 許家誠 吳比恩

林思諭 林姮妤 林宏洋 黃滯葶

中提琴 ヴィオラ

王 瑞 施弘仁 陳梅君 黃楷庭

何佳珍 歐聰陽 陳怡蓁 楊愷威

大提琴 チェロ

歐陽慧儒 馬靜儀 曾鈺婷

魏佳玲 陳佳芬 吳欣樺

低音提琴 コントラバス

陳怡伶 朱芝屏 王暘琳 楊玉琳 蔡心瑜

長笛 フルート

吳曉貞 陳奐希

短笛 ピッコロ

坂橋矢波

雙簧管 オーボエ

洪千智 張端庭

單簧管 クラリネット

陳威稜 林佩筠

低音管 ファゴット

簡瑜萱 蔡孟慈

倍低音管 コントラファゴット

森純一

法國號 ホルン

蘇毓婷 林芳瑜 國田朋宏 上野良太

小號 トランペット

陳柏翰 何敏慈 砂川隆丈

長號 トロンボーン

楊錦龍 劉亦倫 蔡佳融

定音鼓 ティンパニ

陳思廷

打擊 打楽器

陳玉潔 黃莉雅 村上海人

豎琴 ハープ

信田苑香

華洲園布袋戲團 華州園人形劇団

林振森 老團長 リーダー

吳彩雲 林建儒 林佳惠 林建旭 郭 忻

行政 舞台スタッフ

陳倩芬 邱業基



台北愛樂管弦樂團組織及團隊

團長	李羅權	樂團顧問	中學庸 黃志全 潘皇龍 鮑元愷
行政總監	俞冰清	法律顧問	林明華 陳德義 王依齡 范世琦
東亞樂派委員會	張武修 顏國瑞	樂團代表人	賴文福
營運委員會	朱育佑	(北市演藝團體第〇〇四二字號)	
製作統籌演出協理	陳倩芬		
行銷副理	楊雅婷		
助理研究員兼網路編輯組組長	陳怡霖		
樂團行政	邱業基		
台北愛樂室內樂坊藝術總監	呂超倫		
屏東事務部主任委員	沈淑婉		
梅哲愛樂青少年管弦樂團指揮	王景賢		
梅哲愛樂青少年管弦樂團行政主任	陳韻芳		
責任編輯	余濟倫		
財務	楊素真 沈嫦娥		
	大華聯合會計師事務所		

財團法人台北市愛樂管弦樂團文化基金會

董事長 陳威中

董事 王拔群 江正治 吳志雄 吳東亮 余松培 邱弘茂 林光信

林高順 洪至正 洪奇昌 張俊明 郭榮壽 黃清章 曾照嵩

楊佳璋 蔡煌瑯 蔡瑞玲 鄭萬來 賴文福 蕭昌貴 *名字按姓氏筆劃順序排列

主辦



財團法人台北市愛樂管弦樂團文化基金會
Taipei Philharmonic Orchestra Culture Foundation



AMATI

指導

財團法人國家文化藝術基金會

後援

公益財團法人日本台灣交流協會、福島県、台北駐日經濟文化代表處、台灣日本關係協會、台新國際商業銀行、全日本台灣連合會、日本中華連合總會



台北愛樂
管弦樂團
官 網



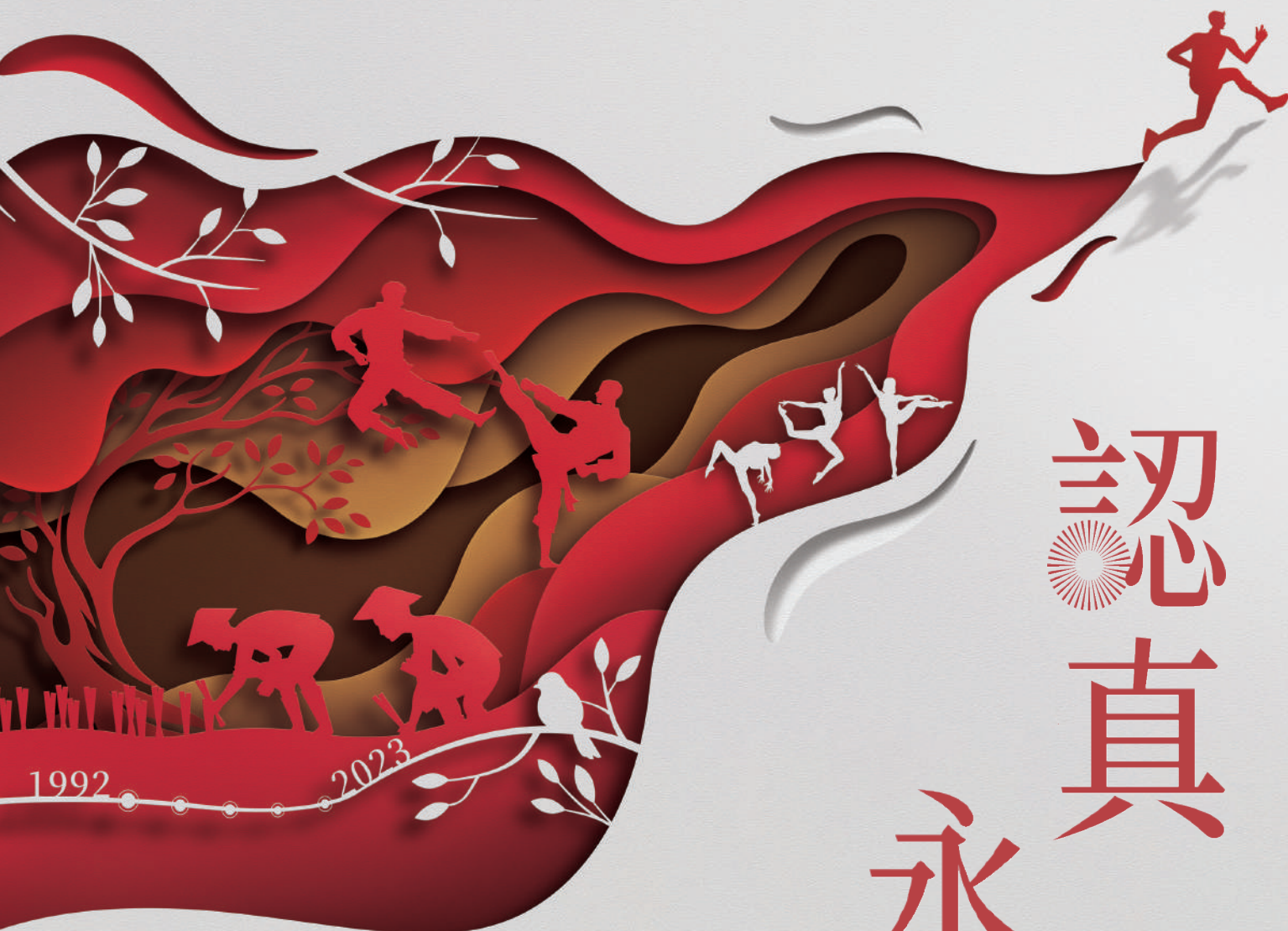
台北愛樂
管弦樂團
粉 絲 專 頁



台北愛樂
管弦樂團
Instagram



愛樂之友
臉 書 社 團



認真

永續

台新國際商業銀行日本東京支店

住所：東京都千代田区丸の内2-1-1明治安田生命ビル8階
電話番号：+81-3-3212-6668（代表號）

台新國際商業銀行日本東京支店福岡出張所

住所：福岡市中央区天神一丁目10-20 14F, A單位

「真剣」の精神を持ち続け、「サステナビリティ」の価値観を实践し、
世界の美しさを起こり続けさせます。

